

「教育実習体験レポート」

[私立高校 英語]

はじめに 私は、2025年5月19日から2025年6月7日までの3週間、山口県私立サビエル高等学校の教育実習を行いました。担当教科は英語科で、HRは2年生、授業は3年生を中心に指導・観察・実践を行いました。本レポートでは、実習期間中に学んだことや感じたことを振り返ります。

実習内容 初週は主に担当教員の授業を見学し、指導の流れや生徒の反応を観察しました。指導案の作成では3年生ということもあり思考力を意識して構成し、創造力、自分の意見を持つことの大切さをねらいとしました。模擬授業では、ELEMENT English Communication III Lesson6 Educationの単元を扱い、本文に沿って実際に5ドル札を見せるという導入を試みることで生徒も興味をもち学習を進めることができました。また、休み時間や清掃活動、朝夕のHRを通じて生徒と積極的に関わりました。生徒の考え方や価値観に触れ、教師と生徒の信頼関係の重要性を実感しました。加えて、懇談会の受付や文化祭の準備など教師の授業外業務にも参加しました。

学びと気づき 教育実習を通して、教師という職業は単に知識を伝えるだけでなく、生徒一人ひとりの状況に応じて柔軟に関わることが求められるということを学びました。実際の授業は、指導案通りに進まない場面も多く、そのたびに臨機応変な対応や瞬時の判断が必要であることを実感しました。また、生徒に伝わる言葉選びや態度によって、授業の理解度や教室全体の雰囲気が大きく左右されるという点も印象に残っています。授業見学を通じては、先生方の話し方や問いかけの工夫、板書の方法などが授業の質に直結していることを学びました。特に、生徒の理解を促すための問いの設計や、生徒が安心して発言できるような雰囲気づくりの重要性について深く考える機会となりました。また、日常生活の中での教員と生徒との関わりからは、信頼関係の築き方や、日々のふれあいの中で生まれるやりがいを体感することができました。これらの経験は、今後教師として成長していくうえで、かけがえのない学びとなりました。

課題と反省 初めて授業を担当した際は、緊張のあまり声が上ずってしまい、指示が不明瞭になってしまいました。その結果、生徒の反応をうまく引き出すことができず、授業目標に達したものの、自分の意図していた授業展開がうまくかみ合わないまま終わってしまいました。問いかけのタイミングや言葉の選び方、活動への導入の仕方など、全体の

流れにおいて多くの課題が残り、あらためて授業設計の難しさで見通しを持つことの重要性を痛感しました。また、生徒一人ひとりの理解度や性格に応じた対応の難しさも実感しました。生徒全体に向けた指導だけでは、個々の反応や困りごとに十分に寄り添うことができず、もっと柔軟な視点と関わり方が必要であると感じました。加えて、評価やフィードバックの場面でも、単なる正誤の提示にとどまらず、生徒の努力や成長をどのように伝え、意欲につなげていくかという点において、自分にはまだ工夫が足りないと感じました。これらの課題を踏まえ、今後は授業技術の向上だけでなく、生徒理解や信頼関係の構築といった人間的な側面にも目を向けながら、教員としてバランスよく成長していきたいと考えています。

おわりに 今回の実習を通して、教員をという職業の責任の重さとやりがいとを改めて実感しました。授業準備や教材研究に加え、生徒との関わり、学校行事の補助等大変だと思う辛い時期もありましたが、それ以上に長年関わりたいと思っていた職種を体験することができ、将来のビジョンを明確に得ることができました。最後に教育実習という貴重な機会を提供してくださった先生方、教職課程の授業を開講してくださっている先生方、教育実習で関わることができたすべての人々に感謝の気持ちを忘れず、この経験を糧に今後の自身の成長に繋げていきたいです。